

夕方の強羅

反対側の山には日が当つてゐるのに
こちら側では 自らの岩山の影のために
ややうす暗くなりはじめてゐる
鋭い声で一羽の鸚鵡が言つた
オマへハコレカラソノランナトヤルノカイ別の一羽が好色の目を光らせながら
緑色の腹をつき出して寄つて来る
腹の毛が乱れてふくらんでゐる
コンバン ナンカイモカンケイスルツモリダラウ コイツメ
いら立つた何百羽もの鸚鵡が
叫びにうながされたやうに
強羅公園中の鸚鵡が僕の方に向つて移動しはじめた
くさを垂らし
のどの赤と緑の毛を逆立て
紫色の小さい舌
鉄環の音をひびかせ
いつせいに 奇妙な喊声を上げる
平気な顔をして通りすぎようとしても
僕のレインコートをくはへる奴もめて
歩くことも出来やしない
僕といつしよの着物を着た女は
うしろの方で 来れない
白い風が真正面から強く吹きつける
カラー写真をとるには
もう 光の量が足りないやうだ
ああ 夕方の強羅公園